

編集後記

本誌 11 月号の特集は「臨床解剖学の新たな知見」である。医療に従事する者にとって解剖学は基本の基であり、すべからく熟知すべきものである。とりわけ、メスさばきに寸分の狂いも許されない外科医にとり解剖学の知識は最も重要なものであり、手術に際してはこれから眼前に現れる全ての構造が、組織の質感も含めて全て三次元的に明瞭にイメージできていなければならない。しかし、わが国では医学教育を目的とする解剖学実習以外の研修などに献体を利用することが法律上規定されておらず、外科医が医療技術の習得を目的に解剖用献体を使用することが極めて難しい環境であった。しかし、三次元構造であり、かつ解剖学的破格も稀ならず存在する人体構造を二次元の解剖書から学ぶことは難しい。“Great surgeon, great incision”とされた時代には助手に入ることで術野を俯瞰して学ぶこともできたが、最小侵襲化が多様な手段で急速に進む昨今、研修医や専攻医が三次元の人体構造をつぶさに学ぶ機会は急速に減少している。人材育成という観点から由々しき状況であった。

整形外科特有の問題もあった。運動器疾患を取り扱う整形外科分野では人体標本を用いる生体力学解析は病態の解明や治療技術開発に有用な多くの情報を提供してくれる。日本整形外科学会員もこの領域で極めて大きな貢献をしてきたが、残念ながらその多くが海外

留学先でのものであった。この状況は長年現場では問題視されていたが、つい最近まで公に取り上げられることはなかった。

しかし、最小侵襲治療に伴う医療事故が社会問題化し、また、医療人材育成に関する国の取り組みも本格化の中で医療技術習得を目的とする献体利用の違法性に関する議論が本邦でも漸く本格化し、日本解剖学会、日本病理学会、日本法医学会、日本外科学会などの努力により平成 24 年に『臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン』が作成され、文部科学省もその支援に動き始めた。さらに、文部科学省は 2019 年度の概算要求に『課題解決型高度医療人材養成プログラム』を挙げ、その中で「医療技術や医療機器の発展・高度化に伴い、外科治療においては、内視鏡、腹腔鏡、ロボットなど高度な機器を用い、従来見えなかった状況下での治療が増加している」ことを訴え、「我が国における解剖実習体を使用した医療技術や医療機器等の研究開発に係る教育環境の整備」を目的として掲げた。医療技術習得から医療機器開発における活用へとさらに一歩踏み込んだかたちだ。

今回の特集はいずれも整形外科臨床に有用な解剖学治験を提供するものであるが、今後医療技術開発に関わる成果が報告されることを大いに期待している。

(平田 仁)

「整形・災害外科」第 61 巻 第 12 号 (11 月号) 2018 年 11 月 1 日発行 (毎月 1 回 1 日発行) 定価 (本体 2,500 円 + 税) 年間購読料金 定価 (本体 39,400 円 + 税) 〔年間 13 冊 (臨時増刊号, 増大号を含む) の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14 TEL 03 (3811) 7165 [編集室直通] TEL 03 (3811) 7184 [営業部直通] FAX 03 (3813) 0288 http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 日本医学広告社 TEL 03 (5226) 2791
--	--

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権 (送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構 (電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。